



未来のワタシ

Women
Role
Models

長崎大学 女性研究者
ロールモデルⅣ

国立大学法人
長崎大学
NAGASAKI UNIVERSITY

未来へ羽ばたく女子学生のみなさんへ、 先輩の輝くメッセージを届けます

こんにちは。私は長崎大学医学部を卒業して、長崎大学病院で医師として働き、今は長崎大学ダイバーシティ推進センターに勤務しています。ダイバーシティとは「多様性」という意味で、その推進とは、さまざまな考え方や価値観を受け入れて、個人が個人としての「やってみたいこと」「仕事にしたいこと」「こうやって生きたいと思っていること」を実現することです。

大学生には、自分のキャリアを自分で考えるための教育をし、女子中高生には、理系進路選択で悩んでいれば、悩みを少しでも解決できるように、お手伝いもします。

今般、文部科学省「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ事業（特色型）」において、ロールモデル集を制作しました。

いろいろな場面で活躍する長崎大学出身の女性研究者や、様々な経験を積んで、今長崎大学で活躍している女性研究者に取材や座談会をして、研究だけでなく、

ご自身の考え、またキャリアの道程を紹介しています。

イキイキ活躍している先輩は、本当にすてきな笑顔でみなさんに語りかけています。自分の身近にロールモデルが存在することにも気づいてもらえるでしょう。みなさんが、夢と希望をもってこれからのライフイベントにも柔軟に対応して、キャリアを広げるきっかけとなることを期待しています。自分

の可能性を信じ、しっかりと力強く歩んでください。未来へ羽ばたくみなさんを応援しています。



ダイバーシティ推進センター
教授・副学長

伊東昌子

Contents

2	長崎大学を卒業後進学し、経済産業研究所の研究員に	小西 葉子 さん
4	長崎大学を卒業後、一級建築士として活躍	田村佳寿子 さん
6	福島県川内村で放射線の測定や実習の日々	折田真紀子 助教
8	世界遺産などの文化遺産をフィールドワーク	才津祐美子 准教授
10	長崎大学出身、原爆後障害医療研究所で研究	松瀬美智子 助教
12	長崎大学出身、歯など硬組織の研究と教育に尽力	山田志津香 准教授
14	NHKのアナウンススキルを教育に活用	矢野 香 助教
16	幹細胞研究所を経て、医歯薬学総合研究科に着任	巽 理恵 助教
18	〈座談会〉 研究と子育てと私の人生！	藤井直子 × 久芳さやか × 佐々木規子 × 森野美央
22	〈座談会〉 海外で自分を磨く意味！	モイ・メンリン × 赤澤祐子 × 藤田和歌子 × 隈上麻衣
24	男性研究者からのメッセージ	保坂 稔(環境科学部教授) 北島道夫(大学病院産婦人科講師)

Women Role Models

データは生き物。丁寧に扱えばちゃんと応えてくれます



小西葉子 さん

独立行政法人
経済産業研究所 (RIETI) 上席研究員

こにしようこ
長崎大学経済学部卒業。
同大学院経済学研究科経済学専攻修士課程修了。
名古屋大学大学院経済学研究科博士後期課程修了(博士号取得)。一橋大学経済研究所専任講師を経て2008年より経済産業研究所研究員。2014年から現職。

人間の行動はさまざま
それをデータから分析する

小西葉子さんの勤める経済産業研究所は、厳重なセキュリティの経済産業省別館にあります。屋上からは国会議事堂のあのピラミッド型の屋根が望

めるほどで、まさに霞が関のど真ん中。

「役所のなかなかので、政策を立案する方々からの質問を受けてお答えし、ときには委員会に出ることもあります。でも、仕事の中心は計量経済学とデータを使った実証研究です」。

計量経済学とは。

「統計学の応用分野の一つです。理系の科目では、実験ができ、工場ではたくさんの部品が作られて、畑ではたくさんのトマトが作られ、集められるデータの数が多いです。でも、経済の場合、GDPのようにその年に1つだけのもの、大不況や震災など起きる確率が低いものも対象になります。また人や企業が対象だと、個々が意思を持ち、予測不能な行動もあります。計量経済学は、数が少なく、違いがたくさんあるようなデータを分析する道具です」。

なかでも小西さんの関心は「生産性」で、自身の写真写りを「私は写真の獲れ高が低い」と表現するほど(笑)。しかし長崎大学経済学部に入學したときは違いました。

「最初は南北格差や不平等の是正に興味がありました。さらに学ぼうち、国際機関の途上国支援で、学校と道路どち



集中力の持続にはスイッチのオンオフが大事とか。「オフは料理。栗の渋皮煮も鬼皮を剥くところから取り組みますよ。栗の時期は毎週…基本、研究者なので、しつこい(笑)」

らを作るか決めるときに、その国の生産性への貢献度が重要と知りました。もしもその指標や測り方を間違ったら…と考えると怖くなり、指標や計測方法の道具作りに専念しようと、生産性を研究対象にしました。幸い、生産性は経済産業省と当研究所の重要なテーマでもあり、やりがいを感じています」。



RIETIのイベントや記者発表はこのパネルの前で行うこともあるとか。

独自の視点で
サービス産業をみる

特に注目しているのが、サービス産業の生産性です。

「2003年から美容室のデータを自分で集めています。顧客

の満足や美容師の生産性を測るための経済モデルを作っています。最初に発表したとき『女性だから美容とか化粧とかに興味があるんだ』と色眼鏡で見られました。でもここ最近、身近なサービス業への注目が高まっていて、今考えると世間より半周早かった(笑)。生産性が低いと言われ続けてきたサービス産業も、今やGDPの7割を稼いでいます。けれど、その実態はよく解明されていません」。

逆に今後、おおいに開拓の余地があるのかもしれない。

「学部当時、ミクロ経済学やマクロ経済学などの理論研究はすでに完成しているようにみえて、参入しても自分の居場所はないと感じました。データを通じて現実社会を見る方が私に合っていた。データの足りないところは理論や統計の手法でカバーして、データに話しかけながら丁寧に接していると、気づくことがたくさんあります」。

自分が作ったものが見られる、 モノづくりの醍醐味です



TAMURA Kazuko

田村佳寿子 さん

株式会社PAL構造 一級建築士

たむらかずこ

鳥取県生まれ。国立米子工業高等専門学校建築科を卒業後、長崎大学工学部構造工学科3年次に編入し、1996年卒業。株式会社PAL構造入社し、社内結婚。2児の母で、仕事のかたわら子どもの学童保育所の会長もこなすスーパーウーマン。

「建築物の耐震性を計算し、使う材料を決める」

田村佳寿子さんの勤めるPAL構造は、九州でも最大級の構造設計事務所です。「構造設計」って何でしょう？

「建築の世界は主に大きく4

つ、意匠、構造、設備、施工に分かれています。図面に描いたデザインを実際を作る、つまり施工するには、耐震性を計算したうえで柱や梁などの材料を検討し、申請を出さなければいけません。構造設計はそのパートです」。

鳥取県の国立米子工業高等専門学校建築科を経て、長崎大学工学部構造工学科に編入して卒業した田村さん。当時、日本で構造工学を教えられる学科は2カ所しかなく、ご両親が長崎出身だったこともあり長崎大学を選びました。

「高専では建築の設計や製図など基礎を学び、長大では解析や土木を学びました。女性を私を入れて5人とまだ少なかったですね。実際に会社に入ると建築基準だけでなく土木基準も頭に入れて設計することもあり、構造工学科で学んだことが活かしています」。

「これはお母さんが作った」と言える喜び

社会に出てもこの業界で女性性は圧倒的に少数派でした。

「でもついた上司が『お前は男だ!』と、現場の打ち合わせにどんどん連れ出してくれまし

た。最初は『なんだこの小娘は?』という顔をされました。そのうち1人で打ち合わせに行かされるようになり、緊張しながらも、とにかく必死にこなし認めてもらいました。スパルタでしたが、とてもいい経験でしたね。その上司のおかげで、結婚後の産休や復帰も第一号でスムーズに。今ではだいたい女性も増えました」。



デスクのパソコンでプラントの設計図を確認する田村さん。

2人の小学生の母でもある田村さん。子育てをこなしながら、会社では発電所や巨大スクリーン「オーロラビジョン」など、大物も手掛けました。

「休日にテレビを観ていて、



友人とおしゃべりが大好きなので、たまの女子会が楽しみです。授業参観で平日休むとママ友と速攻でランチして学校に駆け込むなど、時間を捻出しています。

競馬場や競技場のスクリーンが映るんですね。『あっ!これはお母さんが作ったんだよ』と子どもに自慢すると『へえっ!』と驚かれます。この頃はスルーされますが(笑)友達には自慢しているみたい」。

「残業しない代わりにやれることをやる」

担当した案件は自分で工程を組み立てるため、勤務時間を縮めるのは自分の首を絞めるようなもの、とも。

「それでも残業せず絶対定時で帰りたい。そこで子どもの登校と同時に出勤して8時から仕事に取りかかります。どうしたら効率良くこなせるか、集中力勝負です。大変だけれど辞めたいと思ったことはありません。モノづくりの面白さが目に見えるから」。

爽やかな笑顔でそう語りました。

放射線のスペシャリストとして 村の復興を支援します



ORITA Makiko

折田真紀子 助教

大学院医歯薬総合研究科
保健学専攻

おりたまきこ
長崎大学医学部保健学科
卒業。同大学院医歯薬学
総合研究科保健学専攻
修士課程修了。原爆後障害
医療研究所研究員を経て
現職。2014年5月に、日本衛
生学会学術総会若手優秀
演題賞を受賞。現在は月の
2/3が川内村、1/3は長崎
や県外、海外での活動とい
うサイクル。

「川内村から国際会議まで
測る、語る、飛び回る」

折田真紀子先生の主な
フィールドは、福島県川内村。
山あいの静かな村です。東日
本大震災で事故を起こした福
島第一原子力発電所からは

ど近くにあります。放射線測
定の結果を受けて2012年に
いち早く「帰村宣言」を行いま
した。その後復興の先進地と
しても注目されています。2013
年には「長崎大学川内村復
興推進拠点」が設置され、折
田先生が常駐しています。



長崎に帰ってくると必
ず食べるのが「ちゃん
ぽん」。「福島など東北
全般、とんこつスープ
を嫌うので本格的な味
にありつけない。長崎
のちゃんぽんはどこで
も美味しいです!」



「私の役割は、土壌や飲み
水などの線量の環境評価と、
その値をもとにした住民の健
康相談です。『放射線量を
測って』というご相談にも応
じ、数値の解説もします。長大
生のフィールド実習もあり、調
査方法の指導もします。もう3
年目になりますが、夢中でやっ
てきたので、あっという間でし
たね」。

今では村の隅々まで車で駆
けつけ、村人と福島弁でやりと
りするほどに。共に暮らしてき
た先生に対する村人の信頼
は厚く、村の希望でもあります。
一方で、IAEA(国際原子
力機関)や関連学会などで発
表をする機会も時折あるのだ
そうです。

「放射線と福島復興という
現在進行形の課題について、
英語でプレゼンテーションしま
す。個人個人で違う状況を一
口で『こうだ』とは言いきれま
せんが、専門の医療者として

現実を正確に発信していく必
要はあります。とはいえ、エキ
スパートの先生方を前に、駆
け出しとしてはいっぱいばい
い(笑)」。



川内村で村の人々に線量の数値を解説する折田先生。

「今、求められている
放射線専門の医療人」

そもそも、長大医学部保健
学科を卒業後、一度は看護師
としての勤務経験を持つ先生
になった。その後、放射線に
ついてもっと学びたいと大学
院へ。そこに東日本大震災が
起こりました。

「教えを乞うべき先生方は
すでにみんな福島に飛んで活

動を始めていました。後から
私も駆けつけて、以来実地で
学びながらここまで来ました。
将来、看護師や保健師になり
たい方に伝えたいのは、学び
の先で何の専門家になるかを
考えてほしいということ。総合
的なジェネラリストもいいけれ
ど、専門性に特化したスペ
シャリストも大切です。母子保
健や地域医療のほかに、放射
線というテーマがあることを
知って欲しいですね」。

確かに3.11の震災以降、放
射線に関する正しい知識は
必須で、とりわけ医療の世界
では人材育成が急務です。そ
ういった背景もあり、2016年4
月からは、長崎大学と福島県
立医科大学の共同大学院が
スタート。放射線に強い医療
人を育成する専攻で、川内村
拠点も大学院生たちの実習
の舞台となります。

折田先生の毎日は、さらに
忙しくなりそうです。

子どもの頃の小さな疑問が 研究テーマになりました



SAITSU Yumiko

才津祐美子 准教授

多文化社会学部

さいつゆみこ
長崎県五島市生まれ。高知大学人文学部卒業、大阪大学大学院文学研究科博士後期課程単位取得後退学。博士(文学)。国際日本文化研究センター、福岡工業大学社会環境学部、長崎大学大学院水産・環境科学総合研究科を経て、2014年より現職。長崎市文化財審議会委員なども務める。

「世界遺産に沸く長崎
一番大切にすべきは？」

才津祐美子先生の専門は民俗学と文化人類学です。特に注目してきたのが「文化の遺産化／資源化」という問題で、院生時代から世界遺産の「白

川郷」を研究対象にフィールドワークを続けてきました。くしくも長崎は近年、世界遺産への期待が高まっています。

「文化人類学の基本は『文化に優劣はない』です。しかし文化遺産(文化財)には、世界遺産のほかにも国や県、市の

指定などがあり、それがあたかもランキングのように思われている。このことに違和感を持ち、研究をはじめました。文化遺産保護制度による規制や観光資源化によって地域の文化や人々の暮らしが大きく変化することもあります。なかでも世界遺産登録の影響は大きいので、そこを注視する必要があると私は考えています」。

世界遺産登録にはさまざまな関係者の思惑がからんでいるけれど、一番大切にすべきなのは文化を継承してきた人々の想いではないか、と鋭く指摘しました。

「挫折を乗り越えて
遠回りでも目標へ」

五島市三井楽の出身である才津先生。今の専門にたどりつくまで紆余曲折がありました。

「長崎西高生のときは理系でした。でも数学がダメで挫

折。文系受験を考えたとき頭をよぎったのがイルカです。子どもの頃、浜辺が真っ赤に染まっているのを不思議に思っ降りていくと大量のイルカが殺されていたのです」。

ショックで家に帰った才津先生に両親が教えてくれたのが、



関係者への聞き取り調査では、コミュニケーション力も大きな鍵になります。

昔はイルカが貴重なタンパク源だったこと。一方で、報道からイルカ漁(捕鯨)は諸外国に非難されていることも知りました。さらにその非難の一因が「文化の違い」によるものだということを知り、妙に納得したのです。そうだ、自分は大学で比較文化を学ぼうと心に決めます。



「ストレス解消法はおいしいものを食べること。自分への小さなご褒美ですね。この他、音楽や映画、小説や漫画など、いろんなもので気分転換しつつ日々を乗り切っています」



「しかし志望校には行けず、再び挫折しかけて(笑)。ところが、友人が『史学科の先生(人文地理学)の授業内容が才津の関心と似ている』と言うんです。早速研究室訪問し、思いがけず史学科に進むことに。しかもその先生が『比較の前にまずは日本文化から学んでは』とおっしゃるので、素直にそれに応じ、現在に至っています」。

その後、大学院で民俗学と文化人類学を修め、文化研究が一生の仕事に。

「だから、中高生には、受験に失敗しても人生に失敗したわけじゃない。自分の中の小さな疑問や人との出会いを大切にしていれば、そこに次への糸口はあるよと伝えたいです」。

研究者の仕事は男女対等で、一生続けていけることも魅力の一つと才津先生。実際に苦しみながら道を歩んできた人の口から語られる、珠玉のアドバイスです。

甲状腺癌の研究で 患者さんの役に立ちたい



MATSUSE Michiko

松瀬美智子 助教

原爆後障害医療研究所
放射線リスク制御部門

まつせみちこ
長崎大学環境科学部卒業、
同大学院環境科学研究科
環境保全設計学専攻修士
課程修了。同大学院医歯
薬学総合研究科放射線医
療科学専攻博士課程修了。
2012年より現職。2014年、
第11回日本甲状腺学会若
手奨励賞受賞。

環境科学部卒業後
医歯薬学総合研究科へ

松瀬美智子先生の専門は、甲
状腺癌に対する遺伝子診断や
分子標的治療の基礎研究です。

「甲状腺癌の8割は乳頭癌と
いうタイプで、比較的進行が遅

く、早期に治療をすれば治る率
が高いがんです。しかし一部、
治療をしても再発や転移を来
す悪性度の高いものがありま
す。また、10mm以下の微小な
乳頭癌（微小癌）の中には、長
期間ほとんど進行しないものが
あります。以上のような悪性度

の高い乳頭癌や、増大する微
小癌を見分ける分子マーカー
を探すことを主な研究の目的と
しています。手術するべきかど
うかの診断の一助になればと
考えています」。

そもそも松瀬先生は、長大
環境科学部を卒業後、大学院
は医歯薬学総合研究科で博
士号を取られています。珍しい
ケースでは？

「珍しいかもしれません。私の
場合、学部4年の時に所属した
吉川勲先生と高辻俊宏先生
の研究室で、放射線の影響を
調べる実験に興味を持ったの
が始まりです。もっと本格的に
分子生物学を勉強したいと思
い、原爆後障害医療研究所の
山下俊一先生の教室に試験
を受けて入りました。いい先生
がたに恵まれて、分子生物学
の基礎から英語までしっかり教
えていただきました」。

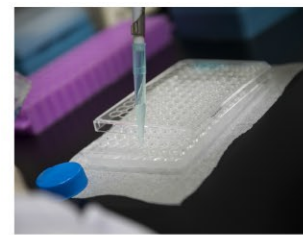
長崎大学は総合大学で、さ
まざまなジャンルに接する機会

があり、やる気次第で希望の
道に進める良い事例ですね。

生体内の
甲状腺により近い
細胞培養法を開発

2014年には日本甲状腺学会
で若手奨励賞を受賞しています。

「これは、細胞培養法の開発



実験室の様子。遺伝子の塩基配列の
変化を見て、変異を調べるのだそうです。

を評価されたものです。甲状腺
細胞は通常、一層でお皿にべ
たっとくっついた状態で培養し
ます。しかし生体内では甲状腺
細胞は三次元的に増殖して組
織を形成しています。三次元
培養法を開発することで、癌遺



4歳の娘さんとの会話が
元気の源。「幼稚園
のお弁当に缶詰のコー
ンを炒めて入れたら「マ
マ、あのね、コーンむし
らんで」と抗議されまし
た。丸かじりにこだわり
があったようです（笑）」。

伝子を導入したときの細胞同
士の反応等を、より生体に近い
状態で検討できます」。

甲状腺癌の基礎研究のなか
で、ツール作りも大切なんですね。

目標は出会った人次第で
見つかることもある

お子さんがおられると聞きました。
「私自身、特に目的意識が強
いわけではなく、出会った先生方
に引きあげてもらったタイプなん
です。結婚、出産も同じで、産ん
でから『あー、ちょっと大変だ
ぞ』（笑）。幸い、母が近くに住
んでおり『あなたは仕事をがん
ばりなさい』と子育ても助けてく
れました。恵まれています」。

後輩にメッセージをお願いし
ます。

「若いときに自分の目標を定
められる人はそういないですよ
ね。でも、いい先生を見つける
ことが、道を見つけるきっかけ
になることもあります」。

臨床は今の患者さん 教育は未来の患者さんのために



YAMADA Shizuka

山田志津香 准教授

大学院医歯薬学総合研究科
医療科学専攻

やまだしづか
長崎大学歯学部卒業。同
大学院医歯薬学総合研究
科博士課程修了、博士(歯
学)取得。2007年～2013年
同大学院医歯薬学総合研
究科医療科学専攻助教。
その間2度アメリカのノー
スカロライナ大学チャペ
ル校口腔健康研究所に留
学。2013年より現職。

「魚由来のコラーゲンで
安全に骨再生を実現」

コラーゲンといえば、化粧品
や美容食品でおなじみの天然
素材ですが、山田志津香先生
が着目しているのが、魚から取
れるコラーゲンです。

「もともとコラーゲンは、骨や歯
などの硬組織の再生に有効
で、牛や豚から抽出したもの
が使われていました。しかし1980
年代後半からBSE(狂牛病)
など、人畜共通の感染症の問
題が起こり、代替素材が求め
られていました。そこで魚に着

目。私はインビトロといって試験
管で細胞を用いた実験を行っ
ていますが、分子量が大きいコ
ラーゲンを低分子化し、ペプチ
ドにしたものを骨芽細胞にかけ
て活性化を促します」。

しかも、魚の皮や骨、鱗など、
棄てる部分を使って抽出する
ので、安価でエコロジーなのだ
そうです。

「実用化されれば、骨折した
高齢者の方や手術で骨を取っ
てしまった患者さんの骨再生
に役立ち、QOL(日常生活の
質)も格段に上がります」。

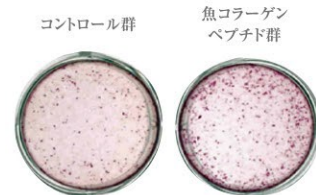
今後は動物実験などを経て
実用化を探っていきます。

「赤ひげ先生志望から
深掘りする研究者の道へ」

長崎大学歯学部に入った動
機は、研究ではありませんでした。

「逆に研究にはまったく興
味がなかったですね(笑)。入学
時は開業志望で、『無医村地

区にいて赤ひげ先生になる』
が目標でした。でも実際に卒業
したとき、このままでは技術も知
識も未熟で使い物にならない
と自分で判断して、もっと修
業しようと大学に残りました。研
修医を経て、知り合いの先生
から『これからの時代は広く浅



アリザリンレッドS染色写真。右が魚コラーゲ
ンペプチドを含んでおり、濃い赤になるほど
石灰化、つまり骨再生が高いのだとか。

くより、自分で専門分野を作っ
て掘り下げた方がいい』とアド
バイスを受け、恩師に硬組織
のテーマをいただき、そこから
がぜん研究に興味を湧いてき
ました」。

現在は研究のかたわら、大
学病院での診療や後輩への
教育にもあたります。



ドライブとショッピング
が趣味。「米国留学時
代は行きまくっていた
ので、今も鳥栖のアウト
レットが大好き。COA
CHのディスプレイは米
国スタイルなので懐か
しいです」

「患者さんの治療をして痛み
が無くなったと喜ばれるとこ
ちらも嬉しい。一方、細胞は、何
も言わないくせに間違えると予
想しない結果を出してくる。『お
願い、うまく結果出してね』と
言いつつのめりこむので、タイ
ムスケジュールを決めて管理し
ています」。

臨床は今困っている患者さん
を助けること。教育、研究は
未来の患者さんを助けること。
そう肝に銘じて3つのバランス
をとっていると山田先生。教育
はどうでしょう。

「気になるのは、最近の学生
が少しおとなしいこと。もっと
好奇心フル稼働で自分の興味の
持てることを見つけてほしいで
すね。親や友人のためじゃなく
、自分のためにやる方が、壁
にぶち当たってもがんばりが効
くよと言っています。それも楽し
く自然に。仕事は面白いもので
すから」。

笑顔でエールを送ってくれ
ました。

人生はプレゼンの連続 自分をどう表現するかが鍵です



YANO Kaori

矢野 香 助教

地域教育連携・支援センター

やのかおり
長崎市生まれ。活水女子大学卒業。日本大学大学院総合社会情報研究科博士前期課程修了。NHKでのアナウンス歴17年、主に報道番組を担当。2014年より現職。ベストセラーとなった著書も多く、政治家や経営者に話し方を伝授。2016年4月よりキャリア支援センターに異動予定。

信頼される話し方は科学的に実証されている

長崎大学の研究者にはさまざまな方がいますが、もっとも変わり種かもしれません。何しろ矢野香先生の前職はNHKのキャスター。現在は大学でス

ピーチ・プレゼンテーションについて研究するかたわら、その研究成果を一般の方に指導する活動も行っています。

「長崎大学では、プレゼンテーション論、マスメディア論、キャリア論の講義を担当しています。信頼される話し方のスキ

ルを、心理学の面から科学的に実証された結果に基づいて教えています」。

伝えたい言葉の前に7秒沈黙する。ジェスチャーは3秒そのまま。矢野先生のアドバイスは常に具体的で的確です。

「NHKでは、業務の一つとして一般の方に話し方を教える機会がありました。女性と比べてビジネス需要の男性は証拠を提示しなければ納得しません。それで心理学の対人認知分野に興味を持ち勉強をはじめました」。

先生が特に重視しているのは言語情報よりも非言語情報です。

「人が相手に何かを伝えようとする場合、ジェスチャーや声の高さなど、非言語情報が印象形成に大きな影響を与えます。プレゼンスキルは誰もが日常生活に応用できる実学・実践の学問です」。

目の前のドアを次々開けていくその先に



矢野先生の著書。

した。最後にNHKが拾ってくれたのです。それも契約社員からのスタートでした」。

阪神淡路大震災直後で災害報道の見直しの時期。取材したことを自分の言葉で伝える教育を受けました。取材好きの資質も認められ、気が付けば17年。

「結婚、出産を機にプレイ



人前に出るときの服はいつも紺地に白い緑取りのジャケット。その数なんと18着。「色彩学を取り入れ、信頼感を表わす色と形としてこのデザインに。これも自分を伝えるプレゼンのひとつです」。

ヤーとしてのアナウンサーから後輩に教える立場に転じたとき、このスキルを心理学で研究をしてみようと思い立ち、社会人枠で大学院へ。指導教授にも恵まれて、赤ん坊を抱いてゼミを受けました。私が教えるキャリア論に『計画された偶発性理論』があります。偶発的なものでも、その偶然を計画的にとりいれ、キャリアをつくっていくという考え方です。私のキャリアもまさにこの『計画された偶発性理論』の結果、現在、長崎大学にあります。ご縁があったなら目の前の扉をどんどん開けていく。ただ、そのとき自分の価値観を明確にしたうえで自分を表現するのが肝要です」。

将来の夢を口にすることは相手に伝えるだけでなく、自らの気持ちを整理して奮起するきっかけにもなると語る矢野先生。自らのキャリアの可能性をプレゼン力で切り拓くことも可能なのです。

再生医療や創薬に 役立つ研究を目指したい

TATSUMI Rie

異 理恵 助教

大学院医歯薬学総合研究科
医療科学専攻

たつみりえ
大阪生まれの大阪育ち。京都工芸繊維大学応用生物学科卒業。同大学院修了。博士(学術)学位取得。国立循環器病研究センター、関西医科大学、NPO法人幹細胞創薬研究所を経て、2010年より現職。

「**幹細胞を使って
脳血管領域に挑む**」

幹細胞は、無限に増殖し、体を作るあらゆる細胞になり得ます。異理恵先生は、かつて勤務していた幹細胞創薬研究所で幹細胞研究に出会

います。

「この研究所は、ヒトES細胞(胚性幹細胞)を用いて心臓や肝臓や神経系の細胞を作り、難病解明や創薬開発に役立てるための研究開発に取り組んでいました。脳の血管には血液脳関門(blood-brain

barrier:BBB)という特殊なバリア機能があります。脳内で悪さをする物質が通過できないようにBBBは脳の門番となり物質の脳への通過をブロックしているのです。しかし、この門番は脳の疾患に効く薬の通過をもブロックしてしまいます。BBBを通過し脳にまでデリバリーされないと薬になり得ません。そこで、開発中の薬がBBBを通過できるかどうかを評価できるツールをヒトES細胞から構築する研究に取り組みました。そんななか、iPS細胞(人工多能性幹細胞)の誕生が報告されました」。

「**ES細胞の研究経験が
iPS細胞の研究にも活きる**」

ノーベル生理学・医学賞を受賞した山中伸弥教授が生み出したiPS細胞は、医学・生物学の分野に大きな衝撃を与えました。

「iPS細胞が登場するまではES細胞が再生医療に活用できる万能細胞として期待されていました。iPS細胞は患者由来の細胞からも作製することができ、移植時における拒絶反応のリスクが小さいのです。しかし、iPS細胞とES細胞



実験室にて。このシャーレひとつひとつに細胞が入っています。

の研究は密接にリンクしているため、ES細胞を用いた研究が過去のものになることはなく、むしろES細胞研究に携わった経験が生きてきました。現在、ES/iPS細胞を用いた脳血管領域の研究に取り組んでいます」。

「**ひとつずつ謎を解き明かし
小さな喜びを重ねる**」

ずばり、研究者の資質って何でしょう。

「そうですね。研究は、地道な作業を進めて、ひとつひとつ謎を解き明かしていくものなので、根気強さと熱意かな。気が遠くなるような作業の連続になることもあります。うまくいかないことのほうが多いです。だからこそ、小さな発見、小さな喜びが、明日への原動力になります。粘り強く、小さな喜びで感激しやすい人が向いているかもしれません」。

再生医療の実現化にはまだしばらく時間がかかります。これまで研究一筋だった異先生ですが、長崎大学では「次世代を担う若者に研究の魅力を伝えたい」と、若手研究者の育成にも貢献したいと考えています。



オフはお茶のお稽古を楽しんでいます。静寂したお茶室の中で季節のしつらえ、釜の湯がたぎる音、香のかわり、抹茶の甘み・苦み…五感が刺激されます。研究とは違う分野の方のご縁も新鮮です。



座談会

研究と子育てと私の人生！

／ 藤井直子 × 久芳さやか × 佐々木規子 × 森野美央 ／



研究を続けながら
子育てもがんばる
女性研究者4名に
集ってもらい、自身
の暮らしぶりや研究
生活について語っ
ていただきました。



FUJII Naoko

KUBA Sayaka

SASAKI Noriko

MORINO Miwo

誰かが門を叩いて
次に続く人が広げる

— まずはそれぞれ専門領
域を教えてください。

久芳／私は長崎大学病院で
乳がんを専門にしています。目
の前の患者さんにベストを尽く

し、将来の患者さんのために
臨床研究を推進したいです
ね。また、9歳、6歳、7カ月の3
人の子どもの母親です。

森野／発達心理学が専門
で教育学部の幼稚園教育
コース専任です。週1回保育
園や幼稚園に出向き、幼児と

保育者との関わりと変化を観
察研究します。2歳の娘がお
ります。

佐々木／私は医学部保健学
科で母性看護や助産学を、大
学院では遺伝カウンセリングを
教えています。大学病院では
遺伝カウンセラーとして、遺伝

相談に携わっています。娘が2
人いて10歳と7歳です。

藤井／労働法、特に男女が
働く場の法律制度を英国と
比較して研究しています。4
歳と6歳の子連れ単身赴任
中です。

森野／やはり日本は賃金の男

女差は大きいのですか？

藤井／はい、日本の女性の平均
賃金は男性の6割程度。労働と
年齢のグラフも相変わらずM字
型で、出産・育児を機にガクッと
仕事を辞めてしまいます。

久芳／以前ある集まりで女性労
働のM字型の話になり、男性か
ら「M字でも仕事に戻れるならい
いじゃないか」という発言が出
て、がっかりしました。戻るにしても
正規ではなく非正規だから問題
なのに、わかってない。

森野／一番弱い立場の人の状
況が問題なのに。

藤井／仕事を続けながら結婚、
出産となると誰でも決断の場面
はありますね。そこで門を叩いた
先駆者がいて、後輩が後に続く
積み重ねでしようか。

やりたいことを見つけ、あきらめない！周りが助けてくれます



久芳さやか 助教

長崎大学医学部卒業、同大学院医歯薬学総合研究科博士課程修了。九州がんセンターを経て長崎大学病院乳腺内分泌外科に着任。

「しんどくて楽しい
仕事と子育て2本立て」

——「両立してきてよかった」と感じる瞬間は？

佐々木／私は子育てを通して仕事とは違う人たちと知り合うことができたとき。最初はママ友の作り方がわからなかった（笑）。でもPTAで話しかけてくれる方と仲良くなれました。

森野／保育園だと、みんな送り迎えも一分一秒が惜しい。おゆうぎ会などがチャンスですね。私は専門が3、4、5歳の研究なので、0、1、2歳はテキストを読む程度。でも実際に産み育ててみると、テキストの行間

にはいろいろあるなと（笑）。例えば「2歳のイヤイヤ期は主体性を受け止めて共感しよう」なんて書いてあるけれど、簡単じゃない。葛藤を越え少しずつ親になっていくということが実感できて、授業に活きました。

——とはいえ、大変な時も？

佐々木／私は姉が近くにおり、助けてくれます。ありがたい。

森野／現在フレックスタイム制で働いていますが、私にとっては使いやすく、子育てしながら仕事を続ける職場として向いているかも。

藤井／我が家はファミリーサポートとシルバー人材センターを活用しています。例えばシルバーは事前登録でマッチングしてもらい、食事の準備や子どもの見守りをお願いできます。

森野／シルバー人材…メモメモ…（笑）情報はすごく大事！

「時は金なり。
1日をマネジメントするコツ」

森野／子育て中は残業で仕事の帳尻を合わせるのは不可能です。そこで私は明日やるべきことを前日にリストアップ

して、すぐやらなければ多くの人に迷惑をかけるものから優先順位を付けて集中してこなします。でないと頭がパンクしちゃう。自分が壊れないで生きていくための術かな。

佐々木／月に、多いときで4、5回出張が入るのですが、子どもは誰がみるかを手配してから組み入れます。無理な時は断ることをためらわない。

久芳／タイムマネジメントは業務のマネジメント。私、週に3回2時間、専門の業者さんに炊事と掃除と洗濯の家事代行をお願いし、仕事を減ら

若いうちに子育ての現実を見て心の準備をしてほしい



森野美央 准教授

愛媛生まれの山口育ち。広島大学大学院教育学研究科博士課程後期修了、博士（教育学）。2013年より長崎大学教育学部人間発達講座着任。

仕事と子育て、2つの経験が人生を豊かにします



佐々木規子 助教

信州大学大学院医学研究科修士課程修了。2007年より長崎大学大学院医歯薬学総合研究科保健学専攻。2005年より認定遺伝カウンセラー。

しています。

一同／えー、それはすごい！

久芳／確かにお金はかかりますが、時間をお金で買う感覚ですね。仕事で疲れて帰宅すると片付いていてご飯もできていて。子どもと過ごす時間も増え、その分子どもに優しくできるのでは？と思います。

藤井／子どもから病気をもらわないことも大事ですね。自分が寝込んだらアウト。うがいや手洗いはしつこくやっています。

「自分の長い人生を
客観的に見渡して」

——後輩へ一言どうぞ。

久芳／子育てで手のかかる時期はすぐ終わります。その後の人生を考えると、自分のやりたいことをやっておかないと損ですよ。まずはやりたいことを見つけましょう。そして子育てで仕事を離れず、やりたいことは簡単にあきらめない。何かあれば周りが助けてくれます。

森野／最近、昔と比べて子育ての大変さが見えにくく、テレビCMで「子育ては楽しいよ」ばかりなのが気になります。現実と直面したときに「こんなはずじゃなかった」となって最悪虐待に繋がりがかねない。だから10代のうちに他人の子育てを、可能ならば丸1日密着して心の準備をしておくのも大切です。

佐々木／私、若いときは自分にも人にも厳しかったかもしれませんが、思い通りにならない子育てを経験して柔軟性が身につきました。口癖は「まあいいか」。いい加減ではなく「良い加減」を見つけることが大事です。子育てと仕事という2種の経験が積み重なることで人生が豊かになりますよ。

森野／教員として学生を見る

目も変わります。この子がここまで大きくなったのは親御さんの努力があったからこそ。生まれてきてよかったね〜と（笑）。

藤井／日本では、未だに多くの企業で男性が長時間労働を当然と思い、早く帰れず育児も仕事も男女が共に行うことで豊かになるのが社会の理想。早くそれを当たり前にしたいですね。

一同／そうですね、ほんと。

——ありがとうございました。

男女が共に仕事も家事も子育てもできる、それが当たり前の社会に！



藤井直子 助教

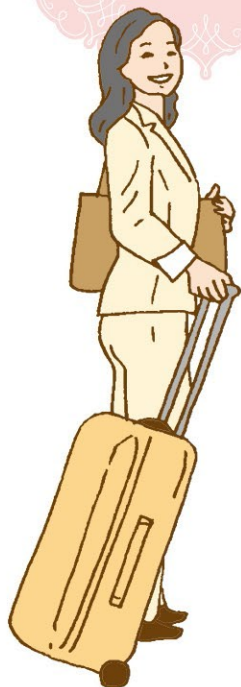
東京にて法務省勤務の後、早稲田大学大学院法学研究科博士課程入学。2015年より長崎大学ダイバーシティ推進センター着任。

海外で自分を磨く意味！

\ モイ・メンリン × 赤澤祐子 × 藤田和歌子 × 隈上麻衣 /



研究者のなかには海外経験をjて、自身のテーマを深く掘り進む人々がいます。若いときの海外経験は〇？×？経験者4名が一堂に会して本音を語り合いました。



誰かが門を叩いて
次に続く人が広げる

——まずは皆さんの専門領域からお教えてください。

隈上／私は言語学の第二言語習得を専門テーマとしており、母語を持ちながら第二言語を習得していくメカニズムを

説明しています。

藤田／私の専門は薬理学で特に痛みを抑制する薬の研究をしています。がんの患者さんの痛みを和らげるオピオイドという麻薬に焦点を当て、副作用や依存性が無くて効果的な薬の開発を手掛けています。

赤澤／私は消化器の医者で

す。研究テーマは細胞が死んでいくのをひたすら観察するという、一見暗いものです(笑)。でも細胞の生死を調節すると、肝臓の様々な疾患の進行が抑えられる可能性があります。
モイ／熱帯医学研究所で感染症の研究をしています。特に蚊が媒介するデング熱やジ

カ熱などの薬やワクチン、評価ツールの開発をしています。一昨年、戦後初のデング熱流行時に、国立感染症研究所の研究官として日本に貢献できたことは、外国人研究者として大変名誉な事。今後の研究においても貴重な経験を得られました。

——海外経験についてお話しください。

隈上／海外へは大学3年の時に交換留学でアメリカのペンシルバニアへ。その後非常勤講師をしながらNYの大学院で5年間過ごしました。田舎と大都会のNY、まるで「別の惑星」でしたね。

藤田／あ、私もNY！でも実は最初は留学に興味はなくて(笑)。ところが結婚後、夫が海外留学してしまい、後を追って渡米。恩師の紹介であちらの医科大学にポストを得て2年半研究に携わりました。

隈上／もしかして街ですれ違ったかもしれません(笑)。

赤澤／私は父が研究者だったので子ども時代に海外生活を経験。「世界って広いんだな」という衝撃があり、院生のときにアメリカのミネソタ州に3年間留学しました。

モイ／私の場合は皆さんと逆で、マレーシアから日本に留学したことに始まり、厚生労働省に5年間勤め、長崎にやってきました。

みんな同じ考えではイノベーションは生まれません



モイ・メンリン 准教授

MOI MENG LING

マレーシア・プトラ大学理学部微生物・生化学卒業、筑波大学大学院医科学研究科ウイルス学博士課程修了。国立感染症研究所研究員を経て、2015年より長崎大学熱帯医学研究所病原体解析部門に着任。6カ国語に通じる。

「言語が変わると入る
〇〇〇人スイッチ」

——日本と海外の一番の違いは？

モイ／私は多民族国家・マレーシアで生まれ育ちました。他の民族とコミュニケーションを取るには、多くの言語が必要です。また異なる民族を尊重しながら生活していかなくてはなりません。日本は13年目ですが、言葉は文法ルールがあるけれど文化の理解が難しい。例えば海外は何でもストレートに伝えるけれど、日

本は「みなまで言うな」という文化があります。

赤澤／日本では主張しすぎるとダメ、あちらでは何でも主張しないとダメ。

藤田／私もそれに気づくまで時間がかかりました。何も進まないと思い悩んでいたけれど、口にしないと伝わらない。

隈上／私は言語が変わるとスイッチが入る気がします。

赤澤／アメリカに行くとアメリカの人柄に、帰国すると日本の人柄になる。

モイ／マレーシアは主に3つの民族が暮らしており、宗教や文化の違いに配慮します。長崎も和華蘭の異文化が溶け合っていて外国人には居心地がいいですよ。

—— 研究生生活で「勝手が違うな」と思ったことは？

隈上／文系の場合、あちらの方が基盤が整っている印象はありますね。分厚い書類を提出しないと実験させない、でも認められれば予算も獲得できます。

赤澤／アメリカでは技師から掃除スタッフまで役割分担が決まっています、自分で何でも

やらなくても済みました。日本は一つの仕事を一人で全部やりとげるでしょう。

藤田／アメリカではゴミ捨て一つ、ビーカーの洗浄や滅菌も担当者がいました。あと人の交流が多くて共同研究やセミナーも頻繁に開催され、教授も学生も質問しやすくオープンです。

隈上／日本では学会で発表するには一定レベルにならないと難しい…と敷居が高い。

モイ／さっきのゴミ捨ての話

問題発見解決能力を伸ばすには研究職がぴったり



藤田和歌子 准教授

長崎大学大学院薬学研究科後期課程修了。博士(薬学)取得。神戸大学大学院講師を経て、米国マウントサイナイ医科大学博士研究員。2014年長崎大学大学院医歯薬学総合研究科に着任。

遠慮や謙遜するより一歩前に出て自己表現を



赤澤祐子 助教

長崎大学大学院医歯薬学総合研究科感染分子病態学博士課程修了。2010年より長崎大学大学院医学研究科に着任。現在、大学病院医療情報課所属。

でいえば、私は日本に来てあわてましたね。ボスがゴミ捨てしてるんだもの(笑)。でもプロセスを1から勉強するのもいいこと。経験は糧になります。

藤田／海外と日本の違いや、いい面と悪い面を経験することで柔軟性は身に付きますね。

赤澤／「これはこうあるべき」と既成概念に凝り固まらないで、視点を変えるのは重要ですね。



「研究者を志すことは
視点を変える近道」

—— 海外に出たがらない若い世代も多いとか。励ましの一言を。

モイ／「日本で何でもできるから海外に出なくても別にいいや」というけれど、みんな同じ考えを持つとイノベーションは生まれません。「先生が教えてくれないとわからない」じゃダメ。

藤田／そういう意味では、「研究」という行為は、近道かもしれません。自分で問題を見つけて、先生の意見を仰ぎ自分で考えて取り組んで失敗して再チャレンジを経て、成長できます。

隈上／問題解決能力の基盤は論理的な思考ですが、ディベートする機会が少ないのが日本。でも研究することで論理的な思考を鍛えられますね。

赤澤／海外に出ると、それがさらに多角的になる。Nobody=誰もいない人になって競争の激しさやすごい人の存在に刺激を受けて、自分が世界の中心ではないこ

とに気づかされます。

藤田／海外の研究生生活で出会った友人たちには、今もメールで意見を聞くことも。研究者として大切な財産といえます。

モイ／英語は苦手と弱腰になる人もいますが、あまり遠慮せずに思い切ってしゃべって。

隈上／言語が拙くても、能力を認められれば、コミュニケーションを図ろうとしてくれます。伝え方は大事だけれど、中身はもっと大事です。

一同／ポジティブに行きましょう！
—— ありがとうございます。

伝え方は大切だけれど、何を伝えるかはもっと大切



隈上麻衣 助教

九州大学文学部卒業、同大学院人文科学府博士課程単位取得満期退学。2009年～2012年ニューヨーク市立大学非常勤講師を経て、長崎大学言語教育研究センター専任。

男性研究者からのメッセージ

大学は多様な働き方ができる職場

保坂 稔 環境科学部教授

少子化の日本にあって、大学も生き残りをかけた競争の時代になってきています。業績評価等で画一化の動きも進んでおり、大学から多様性が失われつつあります。しかしまだまだ大学は多様な働き方が可能な職場です。女性研究者が増えることで、女性の地位向上などに関する研究が増えたり、女性の発言力が増えたりするかもしれません。また研究者は、たとえば行政機関における学識経験者などで、社会に発言する機会もあります。

さまざまな統計で、日本における女性の社会進出は、遅れているという報告がなされています。女性研究者が多く活躍することで、日本全体としてより女性が活躍できる社会へとなって欲しいと願います。女性の皆さんも、研究者の道に挑んでみてはどうでしょうか。

研究の達成感で周りをポジティブに

北島道夫 大学病院産婦人科講師

女性医師が増えました。私の妻は産婦人科医で、子どもの面倒を見ながら大学の関連病院で診療に従事しつつ、長崎大学の社会人大学院生として研究も行っています。臨床しながらの研究はもともと大変ですが、子育てと診療と研究を両立させることはとても難しく、家族をはじめ様々な支えがあって成り立つものと実感しています。産婦人科医の立場としては、女性は可能なら良き伴侶を得て子どもを持ち育てて欲しいと思います。一方で、産婦人科に限らず、医学研究においては女性の視点は重要で必要とされています。女性医師にどしどし研究してほしいです。仕事とプライベートの両立は決して簡単ではありませんが、妻を見ていると意思あればどうにかなるものだなあと感じます。研究の達成感を還元して、支える周囲をポジティブにしてください。女性にはそのパワーがあると思います。

2016年3月発行



国立大学法人

長崎大学
NAGASAKI UNIVERSITY

長崎大学 ダイバーシティ推進センター

〒852-8521 長崎市文教町1-14
TEL.095-819-2889 FAX.095-819-2159
<http://www.cdi.nagasaki-u.ac.jp>